

# 保育部会職員研修会報告書

|                     |                              |      |                          |             |                 |
|---------------------|------------------------------|------|--------------------------|-------------|-----------------|
| 浜田市保育連盟会長<br>煙艸 のぞみ |                              |      | 保育部会長<br>松浦 清美           |             |                 |
| 開催<br>日時            | 令和7年8月12日                    | 開催場所 | 浜田まちづくり<br>センター<br>(研修室) | 記<br>録<br>者 | 金子 真美<br>あおい保育園 |
|                     | 13：30～15：30                  |      |                          |             |                 |
| 出席<br>園             | 加盟園 17 園（23 名、zoom 参加のみ 2 園） |      |                          | 欠<br>席<br>園 | なし              |

○講師：新宿せいが子ども園

森口 達也先生

○内容：「見守る保育」（子どもの主体性について）

## 保育者の姿勢

良いチームの為に自分の人格を高めることが大切。

正直さ、思いやり、共感、自己反省と成長、感情のコントロール、謙虚さ。

職場で感情のコントロールが大切。

## 保育園が持つ公的な役割を理解する

園を私物化しない。保育指針に沿った保育をする責務がある。

保育指針「子どもの発達を保証すること」・・・子どもが本来持っている力や可能性を適切な環境と関わりの中で引き出し、伸ばしていくことが保育所の役割。

保育の方法についても参照すると良い。

## 意欲的に関わられるような環境作り

子ども主体の保育（保育の方法ア、イ、ウ、エ、オ明示）

環境と関わりを通した子ども主体の保育を行うことは発達を保証することになる。

子ども主体でどのような力（発達）が促されるのか・・・自己決定、表現力、創造力といった非認知能力

※一人ひとりの子どもに全てが同じように身につくわけではない。表れるスピードや表現の仕方は違う。前担任のせいではなく、教育の成果はすぐに表れるものでない。

子どもの主体・・・自分の意見、判断によって自ら責任をもって行動すること。

大人がすべてやってしまうと自己を発揮できない。ゾーン（環境）がない場所では主体（気持ち）が生まれない。

教育とは、自分が楽しいと思えることを見つけてとことん楽しむこと。「これだけはないといけない、あとは自由に」とメリハリを持ち、子どもに共感することが大切。

子どもは何もできないわけではない。何もないところに力をつけていくのではなく、精神的土台、能力を持っていてそこから必要ない力を排除していく。後天的に身に付けていく能力もある。

→子どもは白紙ではなく、色々な可能性の設計図を持っている。それはまわりの主体的な関わりの中で発達する。

自分から行動すること、自ら選ぶことのできる環境、やりぬくことが出来る環境が大切。発達に合わせた環境でないと、行動を制止することが多くなってしまう。大人が制止することをなるべく少なくすることができる環境が必要。

## 0、1歳児クラス

同じ発達の子ども同士で遊ぶ。「遊」「食」「寝」の環境の独立によって欲求を満たすことができるようにする。

乳児保育のねらい・・・身近な様々なものに興味を持つことが出来るようにあえて散らかしている。無刺激にしない。物を投げる欲求を満たせるように環境の中に準備する。棚の玩具を取りやすくする。五感を使うよう色彩鮮やかやものや指先を使うようひっぱったり、つまんだりできるもの。→壁面ボードにはあえて普段触ってはいけないようなものを使用する。

※環境としてふさわしいかどうか迷った時には、「まずやってみる、合わなかったら、危なかったらやめればよい。」

パズルは置いているとバラバラになるので、設定として個別に行う。

具体物ではなくBブロックやレゴ等の抽象的な玩具で遊ぶことで、近くで遊んでいる子ども同士のイメージができ、共感力を育むことに繋がる。

## 片付けについて

0、1歳 保育者を手伝ってもらうような促し。無理に子どもが片付けなくてもよい。

2歳 ゆるやかな移行期 2歳までに完璧にできるようにならなければいけないわけではない。大脳に発達に伴い我慢することができるようになるので、「到達点」を持たないようにする。

予想や意図、期待をもって行動できるようになるので、「みんなで遊ぶと楽しいよ」、「後で貸してね」と先を見通す力に言葉をかける。あえて玩具の数を減らしトラブルを通して譲り合う事を経験させる、ルールに合わせて自律させていく。

## 応答的に関わることの重要性

子どもからのサインを見逃さず関わる。必要以上に介入しない。

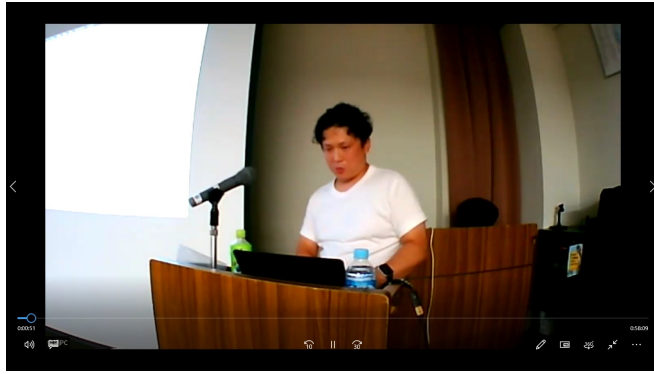
なんでもしてあげることが子どもの主体ではない。反応の返すことが大切。介入が必要かどうかを見極めることが見守り。

乳児間の関わりはその場にだれかがいること、子ども同士の関わりが大切。

## 参加者の感想より

参集、Zoomでの研修により本園でも複数の職員で講義をきくことができ、明日からの保育でお互いに語り合いながらすすめていくことができる機会になった。

自らの人格を高める努力をしていこうと強く思った。環境を整え、共感すること、できることから行っていききたいと思えるような話ばかりで前向きになれた。



■ 保育の目的は「子どもの発達を保証すること」を前提に、具体的な環境づくりや、共感や応答的な関わりの重要性について森口先生のユーモアあふれるお話で伝えて下さり、とても充実した研修になりました。子どもの主体性についてヒントを得ることができ、前向きに保育に向かおうとする気持ちに繋がったと多くの感想を頂きました。

※この報告書全文は連盟 HP 会員向けページに掲載します。又、下欄は活動報告ページに掲載します。